

首都大学東京ボランティアセンター 取組紹介

~キャンパスから社会へそして未来へ~



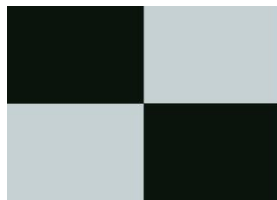
首都大学東京の沿革



都立大学
(南大沢キャンパス)



2005 (平成17) 年 開学



都立科学技術大学
(日野キャンパス)



(2016年度で12年目)

首都大学東京

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY



都立保健科学大学
(荒川キャンパス)



首都大学東京の概要

	南大沢	日野	荒川	合計
学部生数	5,734人	625人	628人	6,987人
学部	都市教養学部 人文・社会系 法学系 経営学系 理工学系 都市政策コース 都市環境学部	システムデザイン学部	健康福祉学部	
専任教員	488人	88人	74人	650人

- * 中規模の総合大学である。
- * 理系の学生が多く、男子学生が多い。
- * 印象として、全体的に真面目で控えめでおとなしい。
- * 教員1人あたりの担当学生数が10人。研究・教育に恵まれた環境

首都大学東京ボランティアセンターの Mission

首都大学東京ボランティアセンターは、本学の使命である「大都市における人間社会の理想像の追求」の実践的な取組の一つとして、ボランティア活動を推進し、その活動を通じ、豊かな人間性と独創性を備えたリーダーシップを発揮する人材を育成することを目的に、2016年1月に開設されました。

首都大学東京ボランティアセンター 活動の3つの柱

1. 外からのニーズに応える ～情報提供と相談支援～

- 掲示板、チラシコーナー、ホームページ等を活用して外部からのボランティア募集や講座、助成金等の情報を提供する。
- ニュースレター、メールマガジン、報告書を発行し、活動を広く発信する。

2. 内からの活動を支える ～学内団体のサポート～

- 学内団体の活動実態を把握するとともに保険加入の促進等、危機管理意識を育む。
- ステップアップ講座やPRの機会の提供、備品等の貸与により、活動の充実を図る。

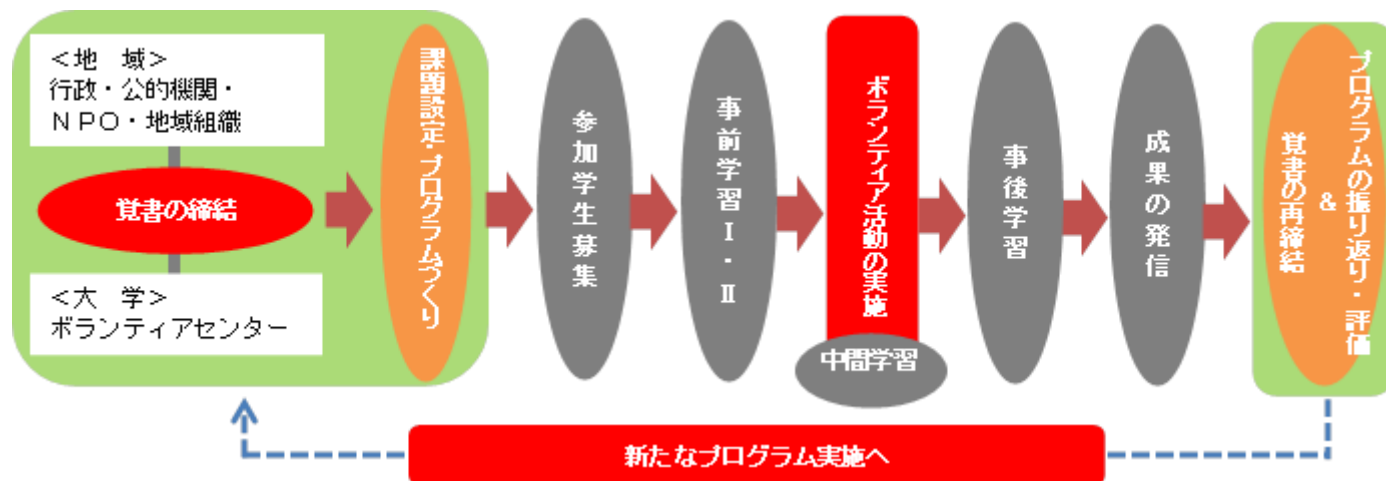
3. 新たに活動を創る ～ボランティアプログラムの 開発・運営～

- 首都大学東京独自のボランティア活動として「スポーツボランティアプログラム」「地域ボランティアプログラム」を推進する。
- 学習と連動した活動を推進することにより、社会のボランティアリーダーとなり得る人材を育成する。

首都大学東京ボランティアセンター 活動の3つの柱

3. 新たに活動を創る ～ボランティアプログラムの開発・運営～

- 首都大学東京独自のボランティア活動として「スポーツボランティアプログラム」「地域ボランティアプログラム」を推進する。
- 学習と連動した活動を推進することにより、社会のボランティアリーダーとなり得る人材を育成する。



首都大ボランティアプログラムとは・・・

事前学習や事後学習など学習と連動した活動を年間を通じて行うなど、より深く、より楽しくボランティア活動を実践することで、社会のボランティアリーダーとなることを目指す。

- * 学習＋活動で深める
- * 年間を通じてチームで取り組むプロジェクト型
- * ボランティアリーダーを目指す

スポーツボランティアプログラム

東京2020オリンピック・パラリンピックで活躍する
ボランティアリーダーをめざして

「スポーツボランティアリーダー養成プログラム」

【活動テーマ】

スポーツボランティアの理論を学び、スポーツイベントでの実践を通して、スポーツを通じた地域活性化やインクルーシブな社会の実現、スポーツ文化の醸成を目指す。

扱う社会課題

- ①世界的なスポーツ大会の成功と外国人へのおもてなし
- ②障がい者に対するバリアや差別の解消と、インクルーシブな社会の創造
- ③スポーツを通じた社会参加の促進と地域交流、地域活性化

活動概要(社会課題に対する取組)

下記のスポーツイベントにおける運営サポート

- ①一般スポーツ「東京マラソン」
- ②障がい者スポーツ「東京都障害者スポーツ大会」
- ③地域交流スポーツ「首都大少年・少女サッカー大会」

期待する成果

- ①スポーツボランティアに必要な知識や経験を備えた人材の育成
- ②スポーツイベント時に主催者とボランティアとのかけはしとなるボランティアリーダーの育成

スポーツボランティアプログラム

東京2020オリンピック・パラリンピックで活躍する
ボランティアリーダーをめざして

「スポーツボランティアリーダー養成プログラム」

【活動場所(予定)】

①一般スポーツ「東京マラソン」

・・・東京都新宿区・中央区・港区 など

②障がい者スポーツ「東京都障害者スポーツ大会」

・・・東京体育館、東京都多摩障害者スポーツセンター など

③地域交流スポーツ「首都大少年・少女サッカー大会 川淵三郎杯」

・・・首都大学東京 南大沢キャンパス 球技場

【連携団体】

- * 一般財団法人 東京マラソン財団
- * 公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 など

地域ボランティアプログラム

豊かな学び。その傍の緑は、豊かですか？

「首都大・松木日向緑地」をフィールドとした 里山保全・多世代交流活動

【活動テーマ】

「首都大・松木日向緑地」をフィールドとして、多世代による里山保全と利活用を通して豊かなコミュニティを形成する。

扱う社会課題

- ①里山の荒廃による生態系への影響（環境的課題）
- ②自然利用の技術・文化の伝承の断絶（文化的課題）
- ③本学が有する豊かな資源に対する認知度の低さ（本学の課題）

活動概要(社会課題に対する取組)

- ①竹林の間伐と竹炭・竹粉堆肥づくり(緑地保全と産物の資源化)
- ②小中学校と連携した自然体験活動、環境学習の企画・運営
- ③高齢者と子どもたち等あらゆる世代の地域住民が集える拠点(サード・プレイス)づくりと場の運営

期待する成果

- ①地域課題を把握し、解決に向けて自発的、主体的に取り組める人材の育成
- ②近隣の小学生や高齢者など地域住民との協働作業による多世代交流の促進
- ③本学がもつ資源の利活用・発信

【活動場所】首都大学東京 南大沢キャンパス 松木日向緑地

【連携団体】ひなた緑地遊学会

プログラムの流れ

参加学生について

【スポーツ】

【申込人数】21人

(定員は15人程度としていた)

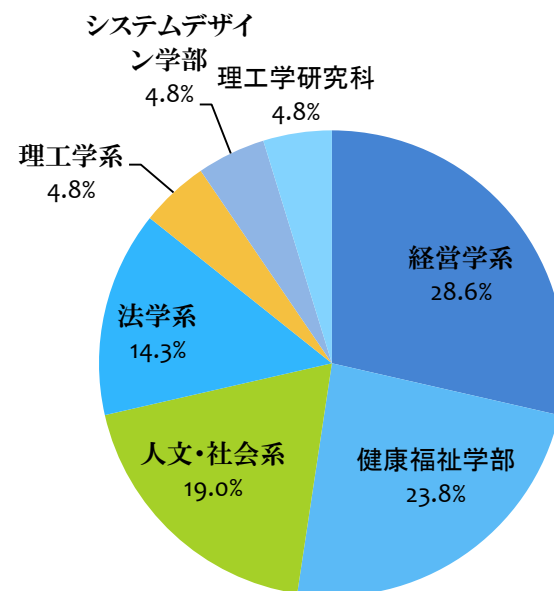
【学年】1年 12人、2年 4人

3年 2人、4年 2人

大学院博士後期 1人

【性別】男 5人、女 16人

スポーツ



プログラムの流れ

参加学生について

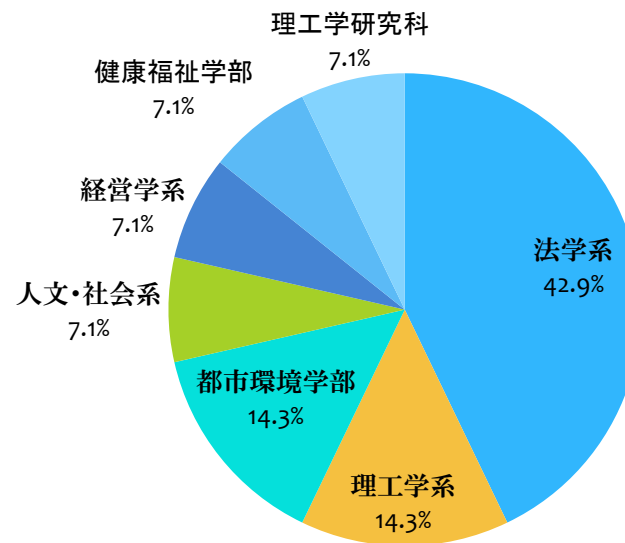
【地域】

【申込人数】14人
(定員は15人程度としていた)

【学年】1年 6人、2年 2人
3年 3人、4年 2人
大学院博士後期 1人

【性別】男 5人、女 9人

地域



プログラムの流れ

【スポーツ】

【参加の動機】

- * スポーツに関心がある
- * 看護や理学療法、作業療法の観点から障がいのある人と関わりたい
- * スポーツ大会などイベントの運営に関心がある
- * 国籍や障がいの有無、性別などを越えた交流などに関心がある
- * 将来、オリンピック・パラリンピックのボランティアに関わりたいという希望がある

プログラムの流れ

【地域】

【参加の動機】

- * 環境ボランティアや里山保全に関心がある
- * 地域の方々との多世代交流に関心がある
- * 自分の専門分野(土木)に活かしたい

プログラムの流れ

事前学習 I

＜プログラム共通＞

【日時】6月4日(土) 13:00~16:00

【ねらい】

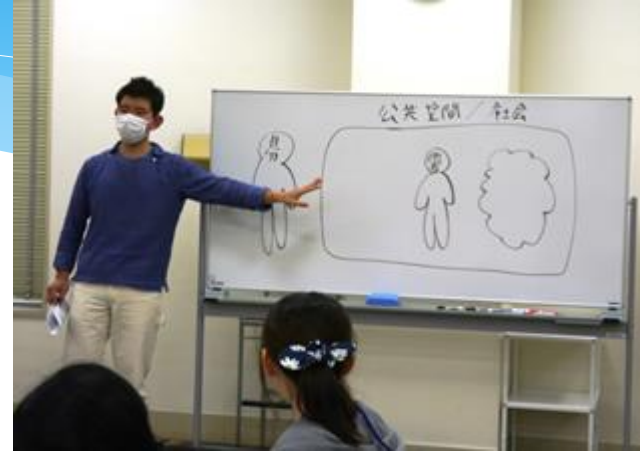
- * ボランティア活動について、イメージを整理し、多角的な視点から考える
- * 「ボランティアプログラム」参加にあたって、自身の動機を明確にする
- * その動機とプログラムの目標をつなげて考える

プログラムの流れ

事前学習 I



アイスブレイクで緊張をほぐす



講師の室田先生よりレクチャー



盛り上がったグループワーク



今後の活動に向けての宣言

プログラムの流れ

事前学習 I

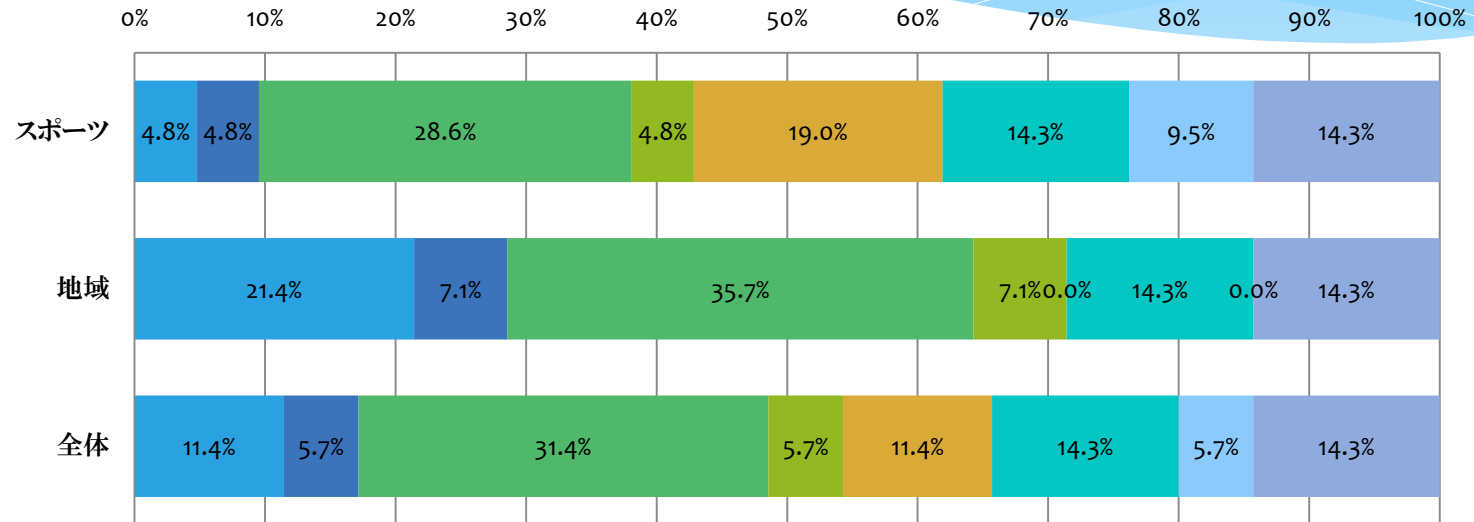
【参加した学生からの感想】

- * 他の人の意見を聞いたり、質問に答えたりすることで、自分の考えが整理された
- * プログラムの目標や自分たちが活動する意義が見出せた
- * まだ知識が足りないことが分かったので、活動を通して考え、身につけていきたい

プログラムの流れ

事前学習 I

最も期待していること

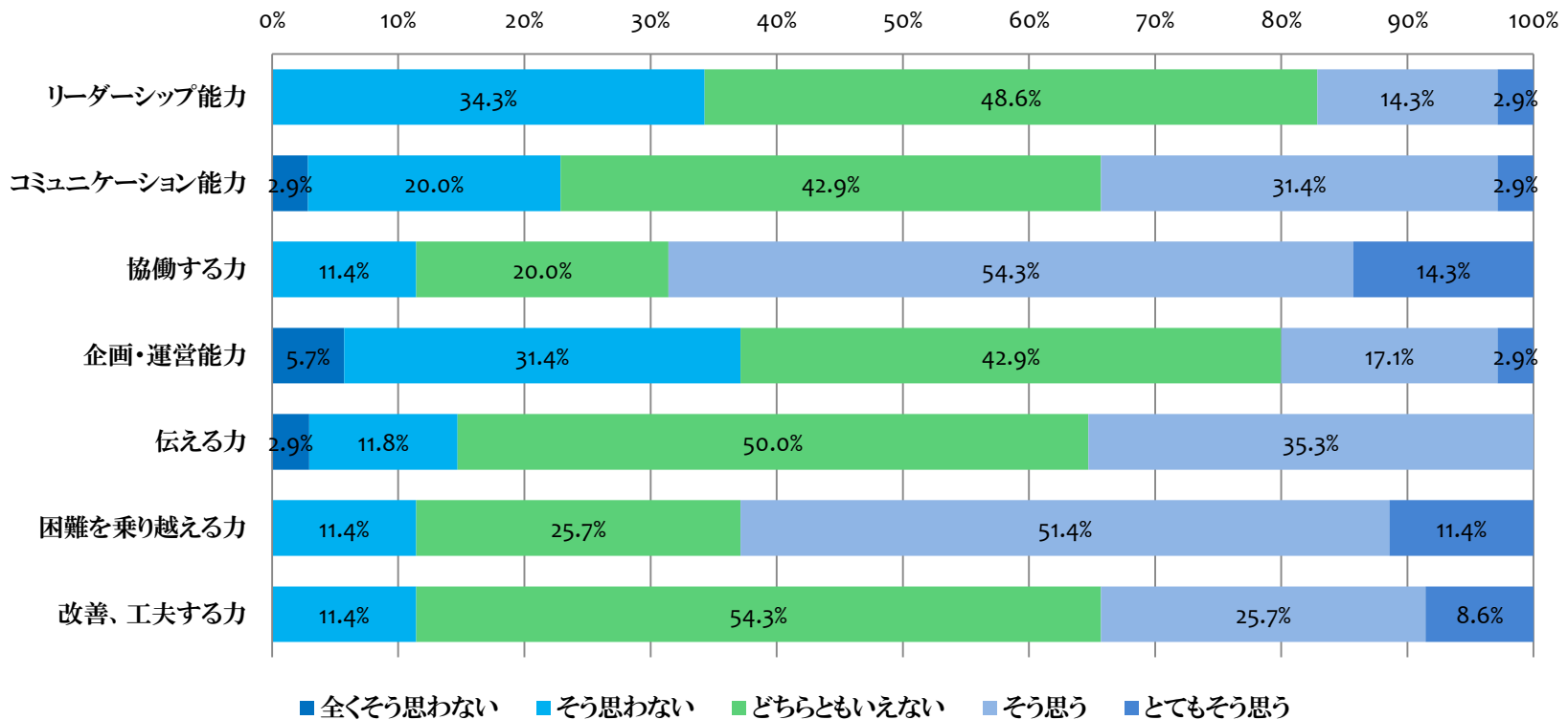


- この活動で関わるテーマや地域の状況について学びたい
- この活動で関わるテーマや地域の課題について学びたい
- この活動で関わる人や地域のために役立ちたい
- この活動を大学での学びにつなげたい
- この活動での経験を踏まえて将来の進路について考えたい
- この活動への参加を通して、大学生活を充実させたい
- この活動への参加を通して、新たな友人関係を広げたい
- この活動への参加を通して、活動先の人から学びたい

プログラムの流れ

事前学習 I

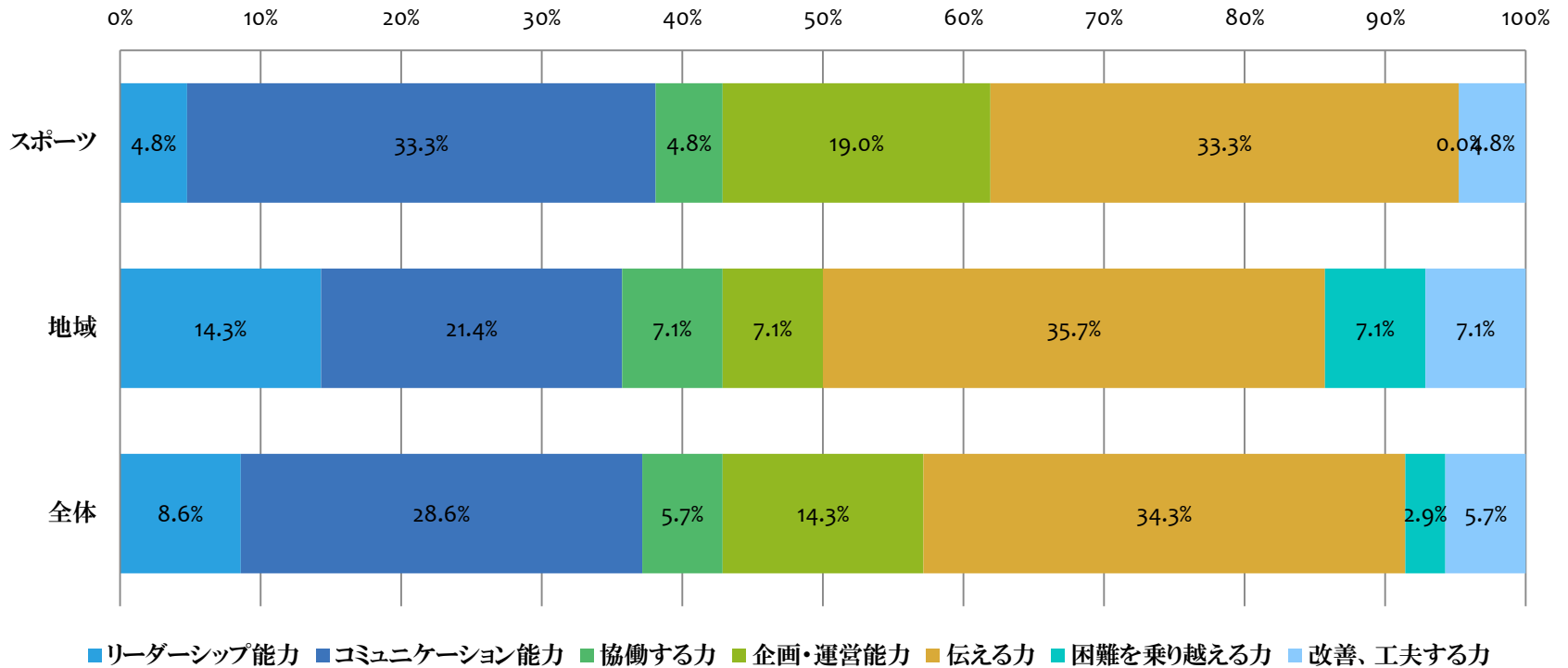
現在の自分の力に関する自己評価(全体)



プログラムの流れ

事前学習 I

最も身につけたい力



プログラムの流れ

事前学習Ⅱ

<各プログラムごとに>

【内容】

- * この活動で関わる地域やテーマ、社会課題について学ぶ
⇒ 歴史や特性、課題等について理解し、そこにボランティアとして関与する意義や効果を考える
- * 活動開始前に具体的な知識や技術を身につける
⇒ どのような視点で関わるか、どのような点に注目して活動を行うか
- * プログラムの目標を理解し、個人の目標を設定する

プログラムの流れ

事前学習Ⅱ



←スポーツVP

地域VP→



プログラムの流れ ボランティア活動



←スポーツVP

地域VP→



プログラムの流れ

事後学習

<各プログラムごとに>

【内容】

活動の効果・意義を多角的に振り返る

プログラムの流れ

成果の発信

＜プログラム共通＞

【日程】3月

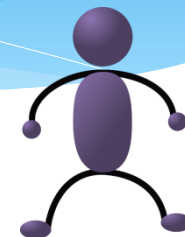
【内容】

- * 活動報告会での活動発表
- * 「修了証」の授与(一連の学習・活動に参加した学生に対し、修了証を発行する予定)

※さらに活動を深めたい場合は、2年目以降も継続がすることができます。

ボランティアプログラム展開イメージ(参画のはしご)

目標とする人物像



社会の
ボランティアリーダー

第3ステップ(3年目)

創造の段階

ボランティアプログラムに
プログラムリーダーとして開発・運営に参画し、
自ら創造するとともに発信する

「リーダー」修了証授与

第2ステップ(2年目)

参画の段階

ボランティアプログラムに
サポーターとして参画する

「サポーター」修了証授与

第1ステップ(1年目)

参加の段階

ボランティアプログラムに
参加する

「参加」の修了証授与

ボランティア
活動への入口

東京都との連携事業

- * 「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座
- * 「東京2020ライブサイト in 2016～リオから東京へ～」運営ボランティア



学生コーディネーターとは



同じ学生の立場から、学内での
ボランティア活動の啓発と支援を行っている。
首都大のボランティア活動の機運を高める役割。

- ① ボランティアセンターの年間行事のサポート
- ② ボランティア活動の啓発や支援にかかわる学生
コーディネーター企画
- ③ センターに来た学生に対する相談・支援

学生コーディネーターの活動

ボランティア団体フェア「サマボラ2016！」

学生コーディネーターが企画、運営を行い、ボランティア団体にブース出展してもらい、学生のボランティア参加につながるきっかけづくり

 学生とボランティア団体だけでなく団体同士のつながりを作る



今後の課題

首都大生のボランティア活動の裾野を広げるために・・・

- ① ボランティアプログラムの充実化
- ② 学生コーディネーターやプログラムメンバーの育成
- ③ キャンパス間の連携